

令和3年12月1日

職員の皆様へ

鳳凰会グループ
林 名誉会長

新たな変異株「オミクロン株」に対しての感染予防について（所感）

業務お疲れ様です。

昨日、南アフリカ株＝オミクロン株 (G446M 変異) の感染者が日本で初めて確認されました。流行している南アフリカで重症化の報告がさほどありませんから、もしかしたら重症化する確率は少ないのかも知れません。

アルファ株の遺伝子解析で、アルファ株にHIVやデング熱の遺伝子配列が認められたと報告がありました。当然、デルタ株にもHIVやデング熱の遺伝子配列はあります。

オミクロン株はエイズ患者さんが新型コロナウイルスにかかり、そのコロナが変異したのではないかとされています。

コロナのHIV配列がエイズと作用して変異が起こったとすると、このオミクロン株の最悪の可能性はエイズのように10年後に免疫低下を起こす事です。

エイズは感染して2週間以内に風邪症状を起こし、直ぐに風邪症状が治まり、ウイルス自体は細胞内に潜みます。その後、10年くらい経ってから、エイズを発症して免疫低下を起こします。

オミクロン株はまだまだ症状についても不明な所は多いですが、発症して強い倦怠感を催し、その後は普通の風邪のように症状が無くなるようです。

もし、オミクロン株がエイズウイルスのように細胞内に潜み症状が無くなるとすると、エイズと同じように本格的な発症は数年以降の話になります。

その可能性は低いのかも知れません。わかるのは10年後になります。

ただ、可能性が低いかもしれない・可能性が全くわからない というのは、可能性は有ると考えるのが危機管理と私は思います。

オミクロン株が重症化しないとわかったとしても、エイズウイルスの例がありますから、重症化しないから問題ないと考えてコロナ前のように行動するより、感染しないように行動する事に留意は必要です。

私達出来る事は、やはり基本的な感染防御です。

世界のどこかでコロナ感染は流行していますから、流行している所から変異は常に起こります。コロナ感染はワクチンなり何らかの予防薬を世界一斉に実行しなければ、抑える事は出来ないと思います。いつ収束するかわからない状況です。

世界でコロナ感染が全て終わるまで、日本は訪日者を検疫で10日～14日の完全拘束が出来れば、日本は島国ですから新しい感染症は理論的には入ってきません。

しかし、政府も経済団体も旅行団体も経済を優先して検疫での10日の完全拘束を嫌っています。検疫を緩めたら新しい感染症は日本に上陸すると考えるのが自然です。

職員の皆様には、日本のコロナ感染の状況がどうあれ、基本的な感染防御を常に頭に置き、また実行して下さることを期待します。

以上